

3.6 令和7年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科2年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を1月5日(月)～3月6日(金)の約9週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。今年度は、海外7機関、国内24機関及び学内41講座等で実施しました。また、最終日の3月6日(金)には、成果発表会を10班に分かれて開催し、約9週間の実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

今回のリサーチ・クラークシップでは、化学教室の酒井宏水教授のご紹介により、防衛医科大学校免疫微生物学講座の木下学教授のもとで、LPS プレコンディショニングが獲得免疫に及ぼす影響について研究しました。

研究に取り組んだ経験がなく、研究がどのようなものか理解していませんでしたが、今回の実習を通してその大変さを実感しました。今回の研究では、マウスの様々な臓器を調べ、多くのデータを得ましたが、実際に影響が見られた部分はその中のほんの一部でした。さらに、データを集める作業は数人がかりで取り組まなければならないほど大変でした。しかし、その分結果が出た時の達成感は大きいものでした。

最後に、このような機会を与えてくださった酒井教授、木下教授をはじめ、ご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(後列右端 西江 悠登さん)

第一生理学教室齋藤康彦教授の御紹介によりアメリカのオハイオ州立大学谷口弘樹先生の研究室で実習させていただき、慢性疼痛下において大脳皮質のニューロンが示す神経活動について研究を行いました。

動物を用いた実験手技や画像処理、資料作成についてご指導いただき、研究者に必要なスキルを多く学びました。動物実験は動物の扱い方の習得、動物の状態に合わせた実験計画を必要とし、難しさを感じることもありましたが、自らの手で結果が得られた時は大きな達成感を感じました。また、知識面や言語面において自身の未熟さを痛感し、更なる学習への意欲も生まれました。この経験を今後の勉学に活かすべく精進していきたいと思います。最後になりましたが本実習にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

(前列左端 野原 千紗子さん)

私は今回のリサーチ・クラークシップでは、循環器内科学講座の野木先生、経堂先生、彦惣先生のもと「心不全入院患者における予後予測モデルであるA2Bスコアのさらなる改良」をテーマにNARA-HFstudyを用いた観察研究に取り組みました。

研究における基礎知識がほとんどない状態で臨んだ実習でしたが、先生方が熱心かつ丁寧に指導してくださったおかげで何とかやりきることができました。研究に取り組む中で、思った通りの結果が出ず、大変な時はありましたが、先生方の手厚いサポートもあり、試行錯誤を重ねながら、一步一步着実に研究を進めることができました。

今回のリサーチ・クラークシップでは臨床医として勤務しながら研究に取り組む臨床研究のあり方の一端を感じることができました。将来の選択肢が広がり大変貴重な機会でした。

(前列右から2番目 松好 咲季さん)

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内41教室、学外(国内)24機関、学外(海外)7機関のご協力のもと、無事に終了することができました。成果発表会では「2か月間の成果を発表するには発表時間が短すぎる」との声も聞かれ、学生の熱意の表れとして受け止め、喜ばしく感じております。また、研究を通じて多少なりとも自分の得意分野を見いだせたと実感する学生も少なくなかったものと思います。会場を新キャンパスに移して初めての開催となりましたが、諸先生方ならびに教育支援課の皆様のご協力により、円滑に進行できました。今後とも本プログラムへの変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。(科目責任者 堀江基礎教育部長)